

泰日協会学校（バンコク日本人学校）学校だより  
Thai Japanese Association School



令和6年度  
第2号

〈Webページアドレス〉  
<https://www.tjas.ac.th>  
〈電話番号〉  
02-314-4151

研究主任 森山 浩二郎

英語科チーフ 丸山 広輝

中学部特別支援コーディネーター 小中 知哉

## これからの社会を生きる力を育むIB教育について

今年度の生活・総合の時間ではIB教育のエッセンスを取り入れた学習を進めていきます。IB教育とは、国際バカロレア機構（IB：International Baccalaureate）が設定する教育プログラムです。IB教育を通して世界の複雑さや多くの課題に対処できる児童・生徒を育成し、児童・生徒に「生きる力」となるための態度とスキルを身に付けさせます。

本校は文部科学省の示す学習指導要領に準じた教育活動を行うため、本来のIB教育のプログラムを完全に実施することはできません。そのため、本校では、IB教育のエッセンスとなる部分を取り入れた本校独自のIB教育を実践していきます。

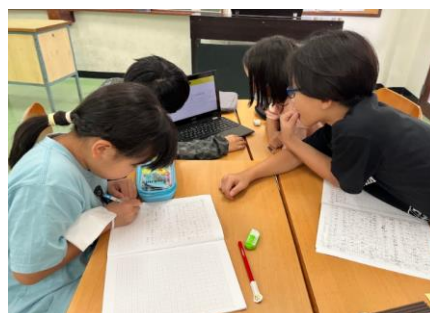
### 本校のIB教育目標

「IBが設定する概念（「見方・考え方」めがね）獲得に向けた教育活動の実践」

このIB教育目標の達成に向けて、IB教育エッセンスとして以下の2つの内容で教育活動を進めていきます。

#### （1）探究学習

IB教育の基本的な学び方は「探究学習」です。探究学習とは、「①課題の設定」「②情報の収集」「③整理・分析」「④まとめ・表現」のサイクルを行う過程の中で周囲の人と情報交換や協働して進めていく学習方法です。



第3学年の理科「磁石のはたらき」に探究学習を取り入れた内容をするると以下のような学習ができます。

- ① 「磁石にはどのような特徴があるのだろうか」「磁石は生活にどのように関わっているのだろうか」と1人ひとりが調べたい課題を設定します。個人で課題を設定することにより、主体的に学習に取り組む姿を育みます。
- ② 実際に磁石を操作しながら実験したり，本やインターネットで調べたりしながら，課題解決に向けて必要な情報を収集していきます。
- ③ 集まった情報を表やグラフにして分かりやすく整理したり，他のグループの実験情報と比較しながら分析したりします。
- ④ 課題についての自分なりの答えを仲間と協働しながらノートやスライド等にまとめて発表します。

これからの時代は，AIが社会を支え，デジタル化やグローバル化がさらに進展するなど様々な変化を迎えていきます。時代が変化することで，これまで「正解」とされていたものが変わる可能性さえあります。そのような社会の中では自分なりに考えて，自分なりに問いを見出して，自分なりの答えを出す力が大切になってきます。この力こそ探究学習で育むことができると考えています。

## (2) 概念

バンコク校では，7つの概念を「めがね」として児童生徒に提示し「めがね」の視点をもって，自分なりの問いを設定し学習していきます。

特徴：それはどんなものか？

原因：なぜそうなるのか？

見方：どのような立場でみるか？

変化：どう変わっているのか？

関連：他とどうつながっているのか？

責任：私たちは何をすべきか？

働き：それはどのようにはたらくのか？



概念の活用はIB教育だけでなく，各教科の学習指導要領でも「見方・考え方」として同じように設定されています。特に「変化」や「関連」は，多くの教科でも設定されている概念（見方・考え方）であるため，生活・総合だけに限らず，他教科でも概念を働かせた学習が行われています。概念（見方・考え方）を働かせた学習を通して，深い学びの実現を目指していきます。

また、令和5年度の生活・総合の学習を基に各学年の「探究プログラム」を作成しました。これを各学年で活用しながら、生活・総合学習の内容を深めていきます。

### 【4年部 探究プログラム】

	テーマ	世界一の日本人学校で生活する私たちは、多くの人に支えられている	社会は多くの人に関わり、働くことで成り立っている
4年	見方考え方がね	それはどんなもの？(特徴) それはなぜそうなの？(原因)	他とどうつながっているの？(関連) どの立場で考えるの？(視点)
	テーマについて	世界一と言われている「バンコク日本人学校」について探究する活動を通して、私たちの学校生活を多くの人々が支えていることに気付いたり、多くの日本人がタイで働いている理由やタイの特色を知ったりして、どうして自分たちがタイの地にいるのかをメタ認知する。	仕事にフォーカスを当て、実際に仕事をしている身近な人の話を聞いたりインタビューをしたりする活動を通して、働くとはどういうことか考える。また、自分が将来就きたいと考えている仕事について、その仕事か他のどのような仕事(人やモノ)と関わりをもっているのかを考えることで、社会が様々な人の支え合いで成り立っていることに気付く。バンコク日本人学校で学んでいる「わたしたち」は今後どう生きていくのか、自己の生き方を見つめ直す。
	関連する単元	・聞き取りメモのくふう(国語) ・私たちの県(社会)	・ブラッドレーのせい求書(道徳) ・朝が来ると(道徳) ・調べて話そう、生活調査隊(国語) (参考資料)(参考資料②)

昨年度、職員研修やIB教育の計画等に取り組み、今年度がIB教育を実践していくスタートの年になります。IB教育を通して子供たちの「生きる力」や「探究心」を育み、様々な課題を自分の力で切り開くことのできる児童生徒の育成を今後も目指していきます。

### イマージョン教育について

本校では、今年度もイマージョン教育に取り組んでいきます。

イマージョン教育とは、カナダで始まった外国語教育の方式で、子供たちを外国語環境に浸す(Immerse)ことで、教科学習と外国語の習得の両方を促す教育形態のことです。

昨年度、本校では「Art English」を実施しました。第3学年から第6学年の図画工作科において、「いっばいつかってなにしよう」という単元で教科学習を行いました。ネイティブ英語教師の“Let's build long things.”や、“Let's build high things”という指示に子供たちはすぐに反応し、楽しんで学習に取り組んでいました。

一般的にイマージョン教育では、言語能力に加えて、母語以外で学習を進めていく中で他の言語や文化を受け入れる姿勢の育成や、言語学習に対する意欲の向上が期待できるとされています。グローバル化が進む現代において異なる文化や言語を受け入れ、理解できる人材が求められています。日本ではなく、英語圏でもない、タイのバンコクで暮らす子供たちだからこそ、このような寛容な姿勢を持つことができると思います。

事後アンケートでは、「Art Englishの授業に積極的に参加できた」や「他の教科も英語で学んでみたい」という声も聞かれました。



イマージョン教育とは、簡単に言うと「英語で学ぶ」学習の方法です。「英語を学ぶ」ことに重きが置かれる英語の授業とは違ったアプローチを通して、子供たちの英語力や、文化に対する意欲を高め、より国際性に富んだ子供たちの育成を進めていきたいと考えています。

## 中学部特別支援学級開設

令和6年度より、バンコク日本人学校の中学部にも新たに特別支援学級（中学部なかよし学級）が開設されました。

令和6年度に開設された中学部なかよし学級は、以下のようにスタートをします。

- ・学級は異学年の生徒で構成され、学年主任、担任、教科担任（国語、数学、理科、社会、英語）が指導を行っています。
- ・個々の状況に応じて、同学年の所属の学級で授業を受けるものもあります。（音楽、理科、美術、技術／家庭、保健体育については全員所属学級での授業参加となっています。）
- ・小学部なかよし学級との交流活動を行います。

（参考文献）

- ・中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編 文部科学省
- ・国立教育政策研究所紀要 第135集  
アメリカ合衆国におけるイマージョン教育 ―2言語併用教育の可能性を考える―  
三輪 充子  
[https://www.nier.go.jp/kankou\\_kiyou/kiyou135-193.pdf](https://www.nier.go.jp/kankou_kiyou/kiyou135-193.pdf)